

# 議会改革特別委員会行政視察報告

【視察日】 令和元年8月5日（月）～6日（火）

【視察委員】 大石信生委員長、平井登副委員長、植田裕明委員、  
大石保幸委員、岡村好男委員、松寄周一委員、多田晃委員

【視察先】 三重県四日市市 三重県伊賀市

【調査事項】 四日市市：通年議会について、議会改革度調査 2018 ランキング  
3位の取組内容等について

伊賀市：議会改革度調査 2018 ランキング 21位（前年度より 48位アップ）の取組について



## 【四日市市議会】

四日市市は、本市と大体同じ面積に 31 万人が住む工業都市で、議員定数 34 名。議会改革度ランキングは常にトップクラスにあり、大津市議会とともに最も優れた議会運営を行っている議会である。

### (1) 通年議会のメリット・デメリット

メリットはたくさんあるが、デメリットはないという答えだった。これはこれまで東京都・荒川区、北上市、大阪狭山市など通年議会を視察した議会で共通してデ

メリットはないという明快な回答をいただいている。

### (2) メリットは何か

①議長がいつでも必要な時に議会を招集できるようになること。議会の主体性の確立です。地方自治法で議会の招集権は首長にあります。開会議会を市長が招集した後は、議長の権限でいつでも議会を招集できるということです。

②会期以外には、基本的に正式な会議は開けないが、いつでも開けるようになること。藤枝市議会は、年によって多少の違いはあるが、6月議会 26 日間。9月議会 32 日間。11月議会 25 日間。2月議会 30 日間。計 113 日間。残りの 252 日間は、議決がなければ委員会は開くことはできない。さらにこの 113 日間のうち本会議は 20 日。委員会はわずか 18 日しかない。合計 38 日。正規の会議はそれ程少なく、これでは議論できる議会と言えないとの指摘があるが、これを改革できること。

③常任委員会や特別委員会の活動が活発化する。やり方によって委員会は際限なく活発に行うことができる。通年議会になると、委員会はいつでも開けるから、四日市市議会ではとくに「議員政策研究会」が活発に活動している。本議会との圧倒的な違いは、議員提案で条例を平成 12 年から 18 本も作っていることである。「文化振興条例」や「市民自治基本条例」といった難しい条例も手掛け、この条例化のための議員間自由討議の場が「議員政策研究会」になっている。

④「会期が通年になると自由に旅行したり、呑みに行ったりができにくくなるのでは」という懸念に対しては、通年議会になっても、議員の公務の時間と公務以外の時間は同じであって、公務以外は自由であるという点は変わらない。との説明があった。

### (3) まとめ

執行部に過大な負担をかけることもなく、議会改革がすすめられ、そのほかの問題点もないという明快な説明をいただいた。



## 【伊賀市議会】

伊賀市は、人口9万人、04年に1市3町2村が合併、本市の3倍に及ぶ558km<sup>2</sup>という広大な面積を持つ、伊賀忍者発祥のまちである。議会改革度ランキングがどうしても高くなるか、伊賀市議会の視察で答えが得られたと感じられた。

### (1) 議会報告会の回数と参加人員の多さ

下記表のとおり、11年間で380回、8,214人の市民の参加は、驚嘆する数字である。30年度からタウンミーティングと名前を変え、

グループワークの導入、議員がファシリテーターを務め意見交換する方法に変えた。回数、人数は大幅に減少したが、ホワイトボードを使った発表などが評価されてランキングが大幅にアップしたのではないかと、伊賀市議会は受け止めている。これらは早稲田マニフェスト研究所の指導を受けていた。(指導を受けることが肝要)

年度	開催回数	参加者数
H19	38回	778人
H20	37回	729人
H21	36回	741人
H22	37回	841人
H23	36回	975人
H24	31回	627人
H25	31回	711人
H26	34回	689人
H27	34回	741人
H28	33回	665人
H29	33回	717人
合計	380回	8,214人

### (2) 出前講座

H19年から年間数回ひらいて、総務、教育民生、産業建設の各常任委員会、議会運営委員会、広報委員会、特別委員会が市民の要望で出かけていき、市民と懇談している。

例えば「小中学校の児童生徒の通学路等について」市PTA連合会と教育民生常任委員会。「公共施設最適化計画と公共温泉の在り方について」一般社団法人・大山田温泉福祉公社と総務常任委員会。「伊賀市庁舎跡地活用について」上野商工会議所女性会と産業建設常任委員会。「やぶっちゃん温泉の現状と課題について」一般社団法人・しまがはら郷づくり公社と産業建設常任委員会。「上野図書館の整備と充実について」明日の伊賀市図書館を考える会と教育民生常任委員会。「ひとり親家庭、寡婦家庭の現状について」伊賀市母子寡婦福祉会と教育民生常任

委員会。というようにやっている。市が直面する重要課題で市民団体と懇談する姿勢、つまり市民参加が評価されている。

### (3) 議会の活動改善。討論する議会へ。

①議会基本条例の見直し

②政策討論会(議会基本条例の第15条に位置付けられ、議員が当面する課題で自由に討論する仕組み) 多くの議会が執行部提案のみに対応するだけに終始している中で、議員間の自由討議は重要だと感じた。「空地の雑草等の除去に関する条例」は、政策討論会の活動のなかで議員提案で実現した。別に案の段階だが「食と農のまちづくり」条例がある。

### (4) まとめ

市民参加に際立って進んだ取り組みがあること。本市議会が学ばなければならないことだと思う。